

天才アートKYOTO



天才アートとは、障
 碍のある人の多くがもつ
 優れた感性と表現力、
 そこから湧き出る独
 創的なアート作品に対して、特定非営
 利活動法人 障害者芸術推進研究機構
 (天才アート KYOTO) が独自にネーミ
 ングしたものです。当機構は天才ア
 ートを推進し、その啓発・普及活動を積
 極的に行っています。



発行日 2018年8月10日 (金)

発行者 特定非営利活動法人
 障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
 京都市東山区大和大路四条下る
 4丁目小松町 四条・新道アトリエ
 info@tensai-art.kyoto
 http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



「夜と太陽」 高橋 美佳 Mika TAKAHASHI アートボード・アクリル 728x515mm 2017年



本年度の展覧会の予定

京都市・パリ市友情盟約締結60周年 記念 障がい者アート展 (仮題)

9月28日(金)～10月14日(日)、京都市・パリ市の友好都市締結60周年を記念して、京都市主催にて京都とパリの障害者アート作品を紹介します。会期中の10月5日には京都国際映画祭2018との連携イベントによる「ライブ・ペインティング」や、10月13日にはパリと京都の取り組みを紹介する「トークイベント」を開催します。

会期 9月28日(金)～10月14日(日) 11時～20時
／10月5日(金)は22時まで／休館日なし

会場 ARTZONE + MEDIA SHOP Gallery
京都市中京区河原町通三条通下る二筋目東入る大黒町44 VOXビル1・2階



会場のARTZONEとMEDIA SHOP Gallery (左奥)

ライブ・ペインティング

日時 10月5日(金) 13時30分～15時30分
会場 ゼスト御池イベント広場／中京区河原町御池
内容 吉本興行所属タレント+天才アートKYOTO所属作家のライブ・ペインティング (できた作品は、国際映画祭メイン会場に展示予定)

トークイベント「描く日常を社会へ開く」

—— 福祉と芸術の架け橋として ——

日時 10月13日(土) 14時～17時

会場 京都御池創生館(京都御池中学校・複合施設)

定員250名・当日先着順・聴講無料

出演 ベルナデット・グロジュー

(サントル・ドゥ・ラ・ガリエル代表)

奥山理子(みずのき美術館キュレーター)

林田新(京都造形芸術大学アートプロデュース学科 専任講師)

重光豊(NPO法人障害者芸術推進研究機構 副理事長)

服部正(甲南大学文学部准教授・進行役)

※詳細は、天才アートKYOTOやARTZONEのホームページをご覧ください。

www.tensai-art.kyoto www.artzone.jp

天才アート展2018

天才アート展は、2012年に第1回展を堀川御池ギャラリーで開催して以来、毎年同ギャラリーを会場として本年度第7回目を数えます。京都の障害者アートを総合的に紹介する展覧会として、市民や観光客に広く知られるようになり、ファンも着実に



会場の堀川御池ギャラリー全景

増えています。今年もご期待ください。

会期 11月16日(金)～12月2日(日) 11時～18時／月曜日休館

会場 堀川御池ギャラリー(京都市中京区堀川御池東入る押油小路町238-1)

会期 2019年3月5日(火)～11日(月) 9時～17時(最終日は16時30分まで)

会場 東山区総合庁舎展示ホール
京都市東山区清水5丁目130-6

天才アートがやってきた!! 展 in 東山



写真は昨年の「天才アートがやってきた!! 展 in 東山」の様子

天才アートがやってきた!!

「公共空間にアートの彩り!」第2弾

新幹線京都駅地下自由通路で本年2月に開催し、好評を得た「天才アートがやってきた!!」公共空間にアートの彩り!」展を今年度も実施します。

場所は、四条通の地下自由通路の中央部分(御幸町通～高小路通付近) 380mで、第1弾と同様に天才アートKYOTOの所属作家の作品をポスターパネルにして展示します。展示期間は、本年11月上旬～来年1月下旬の予定です。

同地下通路は、地上の四条通に比べて人通りが少ないため、このたび京都市と阪急電鉄、四条繁栄会商店街振興組合の三者が提携して「文化的活用エリア」として整備し、今後、展示イベントなどを開催して「あきらまち京都」の賑わいと魅力を高めることを目指しています。



写真は2月に開催した京都駅地下自由通路での展示の様子



第4回天才アート企画展

「土屋彰男と大柳憲一、
2人のコンポジション」

5月18日(金)から5月27日(日)まで、堀川御池ギャラリーにて第4回天才アート企画展「土屋彰男と大柳憲一、2人のコンポジション」を開催しました。

土屋さんと大柳さんの作品における図形と数字が、それぞれにもつキーワードであることに着目して、作風の異なる魅力と、表現の要素にこだわって展開される「構成的」ともいえる共通した特長を楽しんでいただく企画展でした。

土屋さんは絵画27点、タペストリー・織物など17点、立体作品16点、陶器14点の合計74作品が展示され、これまでの天才ア



土屋彰男さんの
作品展示室と
商品

ト展などでは展示されたことのない、フェルト素材の作品や織物、紐による造形物、陶器の絵付けなどがバリエーション豊かに多数出品されました。○△□などに図形化された動物や鳥といったモチーフが、それぞれ画面に構成的に配置され、来場者からはモチーフのかわいらしさや色彩のユニークさを評価する声が多く聞かれました。

大柳さんは絵画作品39点とスケッチブック5冊が出品され、予め色面構成した画面にフォントのように正確な数字を丹念に描き込んだ作品や、1から100000までの数字を独自の規則で色付けし、その構成そのものが色の模様を生み出す作品などが展示されました。また、スケッチブックなどに紙に描かれた細かな数字、板に直接描かれた電車の行先や車両の表示など、ユニークな作品もありました。来場者は、緻密な数字の構成と膨大な作品数に圧倒され、感嘆の声をあげていました。

また、2人の作品のポストカードやクリアファイルなどの商品も好評で、作品の人気の高さを表していました。



大柳憲一さんの
作品展示室と
商品



多くの作品が売却済みとなったライブ制作の団扇の展示

天才アートライブ展
かなでる えがく たのしむ
『奏・描・愉』

7月4日(水)〜8日(日)、七夕・盛夏の時節、ジャズや手製オカリナの「演奏」と団扇に「描く」ライブを、高瀬川のほとりの京町家ギャラリー「高瀬川・四季AIR」で「愉しむ」をテーマに、天才アートライブ展『奏・描・愉』を開催しました。

会期中、初日から6日まで降り続いた雨にたたられましたが、7日(土)・8日(日)には雨も止んで、両日のライブ演奏ともギャラリーの1階が満席となる盛況となりました。2階で開催した団扇やポストカードの制作ライブも、作品の多くが売却済みとなるなど、初めての試みは大成功となりました。

なお、このたびの豪雨では、会場は特に被害はありませんでしたが、西日本各地で多くの被災がありました。被災地の皆さまには心よりのお見舞いを申し上げます。



ジャズ演奏の下嶋千佳さん(右)と勝方 浩さん



オカリナ演奏の土屋彰男さん(右)と土屋敏子さん



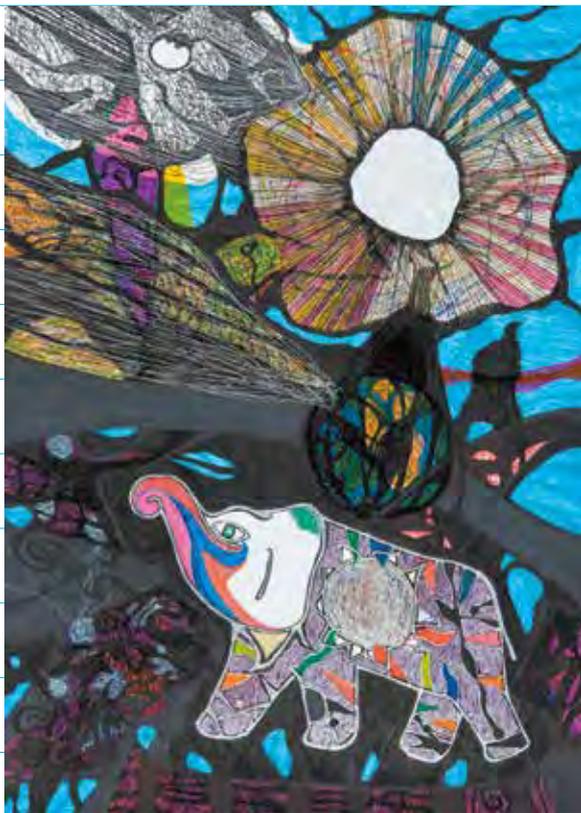
TENSAI
ART
NOTE

天 オ
ア ア
ア ア
ノ ノ
ト ト

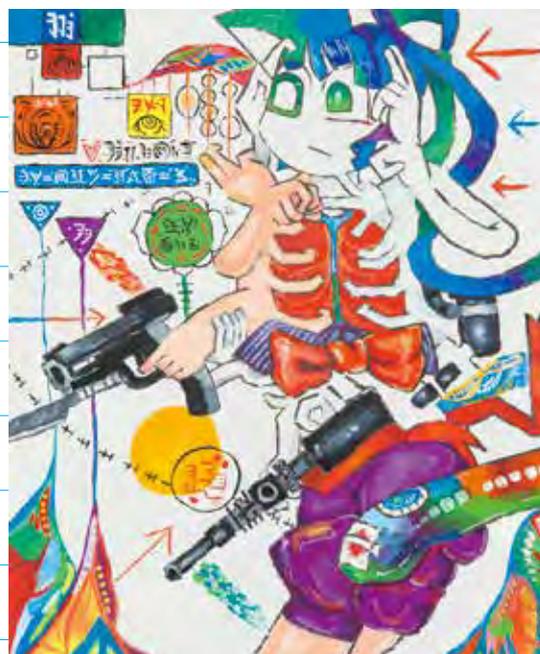
前田 ワタル

前田 ワタル Wataru MAEDA 1997年生
前田は、自分の情念の世界を絵にしていけることに長けている。
画用紙を置いて好みの油性ペンをとると、迷うことなく描き込んでいく。下絵や構想図などを作ることは一切ない。完成後は、タイトルも必ず自ら作品裏面に記載する。

「未知の希望に馳せる」 画用紙・マジックペン・油性カラーペン 380×270mm 2018年



山元 真菜子 Manako YAMAMOTO 1997年生
山元は自ら「ゲシュタルト崩壊フラグ」のペンネームを持って、高校生の時からフェイスブックに作品をアップしている。作品はペンネームに相応しい題材を織り込み、常に2~3作品を同時並行的に制作している。



「じゅうげきせん」 キャンパス・アクリル 606×500mm 2016年

山元 真菜子



「ケツアル ハチドリ」 画用紙・ペン・水彩 363×514mm 2018年

土屋 彰男 Akio TSUCHIYA 1971年生
土屋は、動物や植物を好んで40年近く描き続けている。そのスタイルは、動物の外形を印象的にとらえて、三角形や方形、円形等に誇張的に表現され、色彩も対象物から離れて「土屋調」ともいべき色調で彩られ、観る者に強い印象を残す。

土屋 彰男



「きつね」 キャンパス・アクリル・クレパス 652×910mm 2017年



「チャボ」 キャンパス・アクリル・クレパス 652×803mm 2016年

高橋 美佳 Mika TAKAHASHI 1965年生

高橋は昨年から新道アトリエに所属している。彼女も自らの情念を描くことに長けているが、テーマの多くは自ら体験した記憶がベースになっている。多くは「負の記憶」らしいが、描くことで「見つめ直し」や「消化」ができるという。

高橋 美佳



「トラを飼っていた少女と鳥使いの男の結婚」 アートボード・アクリル
515×728mm 2017年



「女神の時代 - 刀と幻想のカリカチュア」 キャンバス・アクリル
727×530mm 2018年



(上) 「T. ブルームとショパンとひまわり」 キャンバス・アクリル・ペン
455×530mm 2018年
(右) 「結婚式」 アートボード・アクリル 515×634mm 2018年

影山 弘樹

影山 弘樹 Hiroki KAGEYAMA

1991年生

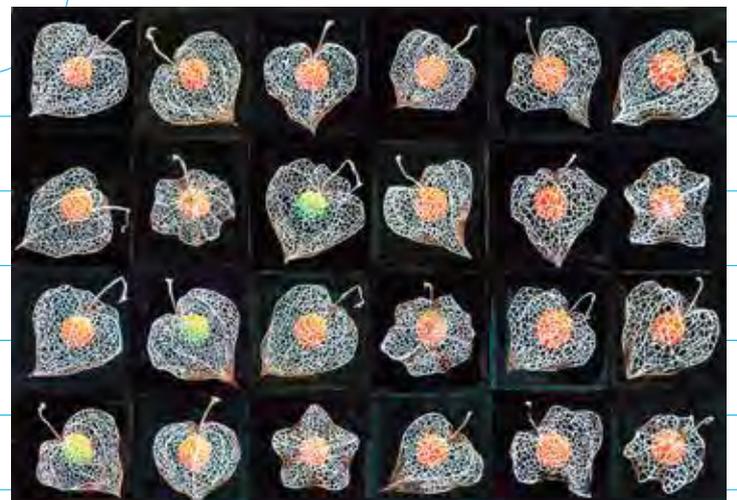
影山は、中学生の頃より偉人の肖像に興味を持ち、これをテーマに描き続けている。画面には、これまでに見た肖像がしっかり記憶されていて、洋の東西を問わず偉人たちが大抵複数で描かれる。時折オウムなどがタキシードを着て現れることもある。



大場 多知子 Tachiko OHBA 1977年生

大場は、日常生活の中で見た事物～植物、動物、自然現象などなど、その中で「感動した。美しいと思った。印象に残った」ことを「描いてみたい」が作品となっている。描くことでひきこもり状態から「自分」を取り戻したという。

大場 多知子



(上) 「ほおずき」 画用紙・アクリル 364×515mm 2017年

(左) 「きのこ祭り」 アートボード・アクリル 385×540mm 2018年

寄稿

余暇を楽しめる生活 || 音楽・スポーツ、そして天才アート

長村 正子

誕生から療育に出会うまで

現在、26歳になる息子の駿は、平成3年に我が家の次男として誕生しました。昨今、世界で活躍されているスポーツ選手の方々を連日テレビで見ますが、いつの間にかその人たちと駿も同年代、随分大人の年齢になっていることを改めて実感します。

思い出せば幼児期の頃は、年子の長男と男の子二人の子育てで、とにかく無我夢中の毎日でした。ベビーカーで移動していた頃は、走り回る長男よりむしろ大人しく、ぐずることのない駿の方が手のかからない赤ちゃんだったように思います。

それが徐々に逆転してきたのは1歳と数か月を過ぎた頃でしょうか。こだわり行動がムクムクと始めてきたのです。

まず、最初の不思議な行動は、外遊びに出掛けてもただひたすら隅っこで石を溝に落とすこと。どこに行ってもずっとそれを続けるのです。皆と一緒に遊ぶということには、ほとんど興味がなく様子でした。そのうち、石落しをしなくなつたと思うと次は、信じられないくらいのも動が始まりました。特に高い所への恐怖心がないのかと思えるくらい、公園の遊具などは、一番上まで登ってしまい、そして上の方で端から端まで結構なスピードで移動するのです。それをいつも私は見失わないようにハラハラしながら見上げていました。それで

も、幸いけがなどしたことは一度もありませんでした。

この頃は、少しは簡単な言葉の理解はできていましたが、自分からの発語はほとんどなかつたように思います。とにかく堰を切つたように動き回る毎日でした。

虫に全く興味がない駿は、長男が好きな虫取りと一緒に出掛けても、広い原っぱを走り回るばかりで、結局帰る頃には、長男が虫ではな

く駿を捕まえて……。いつも家族の誰かが駿の背中を追いかけていました。

2歳頃、

言語の遅れ、さまざま



り行動と多動……。心配は的中し、児童相談所から受けた診断結果は、自閉症でした。当時は、将来への不安と現実をどう受け止めていいのか、心と体の機能が混乱を起し、不覚にも私は、医師から結果を聞かされた時には、ストレス性胃腸炎、家族に結果を報告する時には過呼吸にもなり、その場にじっと座っていられない状態でした。それでも、いつまでも落ち込んでばかりい

られず、何より母親が頼りの幼い子をこのままにしておけない！ 駿にとつていいと思えることは、何でもしてみようと決心しました。

そして、それから療育が始まりました。

幼稚園に入るまでに、母子で児童福祉センターのこぐま園に通い始め、入園後にも遊びを通しての療育カンガルー教室に通い、言葉の教室、音楽療法、京女のセラピー、入学後は、サークル活動等、紹介してもらったり、誘われたりしているんな事に参加させてもらいました。

このようにして出会えた精神科の先生や、発達相談のカウンセラーの先生方、学校の先生、そして多くのお母さんたち、ボランティアの学生さんたちのおかげで、進路の節目節目に励まされたり寄り添ってもらいながら一歩一歩前に進むことができたのだと思います。

綺麗な色への興味と音楽療法

3歳半で幼稚園に入園してからも、相変わらずの多動でしたが、この頃のこだわりは、手にいつも何かを握ることでした。持物は周期的に変わるのですが、その中でも気に入っていたのは色鉛筆で、綺麗な色に興味が出だしたのはこの頃だと思えます。眺めたり、並べたりして、とてもご機嫌でした。

しばらくして、絵を描くということではできませんが、とにかく画用紙一面に隙間なく、いろんな色で塗りつぶしを毎日何枚も続けていました。同時期にはさみで新聞紙を切り刻むということにもはまり、そのせいで当時は、家中塗りつぶしと紙吹雪の山

でした。上手にはさみを使うので、案外手先は器用なのかなとも気づきました。それは、幼稚園がモンテッソーリーの教育方針だったので、さまざまな玩具を用いて手先を使うことが多かったからかもしれません。園でも移動する時は、常に何かしら物を握っていましたし、言葉で人に気持ちを伝えたり共有することができず、不安な気持ちををそうすることで解消していたのだと思います。クラスメイトの子供たちは、そんな風変わりな行動をする駿にも、ごく自然に接してくれていましたし、先生にも本当に丁寧に指導していただきました。

でも、先の見通しが立たないことへの不安や苛立ちから自傷、他傷行為のパニックが起ることもあり、その都度抱きしめて抑えたり、人に謝つたりすることが日常茶飯事でしたから、当時の私は、今日一日がどうか平和で穏やかでありますようにと、ただそれだけを祈るような思いで毎日をごしてました。

駿の気持ちが穏やかになるようにと通いだした音楽療法では、生演奏を聴かせてもらったり、時には親子参加のキャンプで自然の中で貴重な経験もして心身共に楽しませてもらいました。家族で出掛ける時もとにかく体を動かせる場所を選ぶようにしていました。

徐々に、手に握っていた物も外で遊ぶ時は、さすがに本人も煩わしくなつたのか、まずは、ポシエットに入れて肩から下げられるようになり、後に金属類を集めるこだわりが変わつた時、あまりの重さに肩もこつたのか、気づけばいつの間にか持ち歩かなくなっていました。

体の発達とスポーツ

6歳の春、地元の小学校に進学し、学校でできるだけたくさんのお友だちから影響を受けてほしいという思いから普通学級に通うことを希望しました。もちろん母子通学ですが、その前に、駿は、場面や場所が変わると慣れるのに時間が掛かるので、慣れさせるためにたびたび見学を兼ねて学校に遊びに連れて行きました。入学後は、まだ幼いクラスメイトたちは、親子で学校に来る駿と私に興味津々でした。1年間は、普通学級と育成学級を行ったり来たりして過ごし、2年生からは、育成学級に編入しました。その頃は、少しでも冷めたものを食べるのを嫌がり、お弁当はもちろんですが、給食であっても、電子レンジで温めないと食べられない程の頑固さでした。

それが、半年も経たないうちだったでしょう。か、給食に出されたものはどんな食べ物でも残さず完食するという習慣が身につけていました。それは、先生が毎日根気強く工夫を凝らしていただいていたおかげでした。後でお聞きしたのですが、6年の間に、先生の眼鏡を何度も飛ばしていたそう。で、日々の格闘がいろいろあったことは想像が付き、それでも常に愛情を持って指導して下さったことに本当に感謝しています。特に6年生の運動会で、器械体操を皆と一緒に最後までやりきった時、一緒に喜び合ったことは忘れられない思い出です。こうして、よく食べ、よく動いた6年間で、身長もすくすく伸び、卒業式を迎える頃には、私の身長はあっさり越されていました。12歳の春、地元の中学の育成学級に進級しました。さすがにこの時期は、身体も大

きくなっていたので、多動は治まってきていました。となると、逆にこの有り余る体力をどうやって消費すべきか。駿のストレスの発散と健康のためはもちろんですが、家族皆が平和な睡眠を取れるためにも必要不可欠でした。そんな時、ちょうどタイムングよく、ランニングクラブと水泳教室に誘ってもらい、直ぐに始めました。この2つは、現在も継続しています。この頃から移動支援も始め、少し年上のお兄さんのヘルパーさんいろいろな場所に連れて行ってもらえるという楽しみも増えました。

天才アートとの出会いから現在

15歳になって、高校は呉竹総合支援学校に進み、毎日のランニングが日課となりました。かなり体力もついて、この頃に習慣的に走る事が定着してきました。そして、何より呉竹総合支援学校とのご縁で『天才アート』との出会いがありました。

余暇活動は、誰にとっても心の安定にとっても大切なことです。天才アートに参加させてもらえて、駿の余暇活動が充実したのになつていきます。駿は、特別な絵の才能が有るわけではありません。でも、間違はなく素直に描くことを楽しんでいます。特に、魚や、鳥、花を、よく描いています。



あのとんでもなく多動で、不思議な行動ばかりしていた駿が、じつと机に向かって絵を描いて、しかもその描いた絵が作品になってギャラリーに展示されるなんて！ 本当に夢みたいで、ありがたく、うれしく思っています。

自閉症は、決して人に興味が無いわけではではありません。誤解されることも多いかもしれませんが、むしろ上手く相手に気持ちを伝えられない分、人のすることをよく見ているのです。そして、それを記憶して思わぬところで再現したりもします。

駿と一緒に生活している中で驚かされることを知ってるの?!とか、その使い方の間に覚えたの?!とか、多々あります。しかし、急な変更とか相手の都合とか理解できないので臨機応変に対応することが苦手です。なので、ストレスがいつぱいになつてパニックに繋がってしまいます。

駿は特に、言語のコミュニケーションが不得手なので、今お世話になつている加音西京極作業所では、視覚的なカードを用いるP.E.C.Sという方法で、作業中や休憩時に自発的に相手に要求を伝える手助けを

実践的にしてもらっています。駿にとつて分かり易く工夫してもらっているので、とてもありがたいです。要求を伝える、この当たり前のようなことが、駿にとっては一番の難関なのです。

たぶん駿が自閉症でなければ、当たり前すぎて、それができることのありがたさに



私は、気づくことはなかったでしょう。振り返ると、今まで、一つ一つできることが増えていくたびに、笑顔になることも増えていきました。駿が笑っている。楽しんでいるその笑顔を見ていると私も幸せになります。

私たち親子は、療育、学校、サークル活動を通して随所にたくさんの方と出会い、お世話になりながら現在に至っています。点と点をたどって行くと一本の線がつながるように前に進んでいきました。もちろんこの先も前途多難なことは待ち受けているのでしよう。でも、あの不安な気持ちで押しつぶされそうな時期は、はるか遠くに感じています。

今、実感することは、心が満たされて安定する時。幸せだということです。人と比べることもなく、自分が楽しむことをしている時。駿にとつて余暇活動はまさにその時だと思えます。

さまざまな出会いがあつて、今につながることに感謝しながらこれからも続けて行きたいと思っています。

暑い京都の夏に 団扇の無償配布を実施!!

最高気温の記録を塗り替える「暑い・暑い」夏が続いています。今年も京都の企業の協賛・連携により、そんな京都の夏に涼を届ける団扇の無償配布を実施しました。

今年の絵柄は、天才アートKYOTOの新道アトリエ所属作家・土屋彰男氏の「宇宙ペンギン」(部分)を使い、昨年の2倍となる1万2千枚を制作。7月15日・祇園祭の宵々山の日より、市内の美術館・博物館、商店街・地下街や専門店ビルなどのご協力をいただき、配架・配布を開始しました。

団扇の無償配布は、京都市民や観光客の皆さんに天才アートKYOTOを知っていただく良い機会になると期待されます。

制作に協賛いただいた企業・HILLET OP(株)・(株)最上試作工房・(株)西山ケミックス・(株)最上インクス・(株)クロスエフェクト・共進電機(株)・(株)名高精工所・(株)日双工業・(株)衣川製作所・(株)KYOSOテクノロジー(敬称略)(コーディネート・京都職人プロジェクト)



土屋さんの作品を使った団扇(オモテ面とウラ面)

ますます充実する複製画の 販売とレンタル

2016年6月からスタートした複製画は、販売とレンタル方式の二本立てで提供しています。

複製は、高精細のジークレー印刷で、一枚一枚丁寧に原画に忠実に再現しています。ひとつの作品の複製枚数は10枚限定制作で、売り切れると新しい作品を追加していきます。額サイズは、三三、半切、四つ切、太子の4サイズを用意しています。

レンタルは、病院やホテル、公共施設のロビー、企業の会議室や応接室などを対象に、社会貢献活動の一環として採用していただくことを目的としています。すでに洛和会音羽病院様(山科区)、SCREEN HD様(上京区)に採用していただき、2年契約で1年ごとに作品を入れ替え、好評を得ています。レンタルで複製画を展示したいという要望がありましたら、ホームページからお申し込みいただくか、スタッフにお声がけください。作品点数や期間など、ご相談に応じます。

会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集中です。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、「障碍者アートミュージアムKYOTO設立支援基金」などのお申し込みも随時受け付けて

います。詳しくはホームページに掲載していますので、ご協力をよろしくお願い致します。
<http://tensai-artkyoto>

〔編集後記〕

京都市・パリの友好都市締結60周年を記念して9月28日より開催される「京都とパリの障碍者アート作品展」は、京都市主催で天才アートKYOTOが全面的にバックアップ。初めて海外の作家とのコラボが実現します。会期中には、「トークイベント」や「ライブ・ペインティング」も予定されています。多くの皆さまの参加と協力をお願いしたいと思います。

また、天才アート展2018も本年度で第7回を迎えることになり、着実に実績を積み重ねてきました。来年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックには海外からのお客さまも増えることが予想され、われわれも今後は海外にも目を向けて行くことが必要になります。

【表紙の作品について】

高橋美佳は、昨年から新道アトリエに所属して、アクリルによる絵画作品を制作している。主に自らの情念を描くことに非凡な才能をみせるが、テーマの多くは自ら体験した記憶がベースになっている。多くは「負の記憶」のようだが、描くことで「見つめ直し」や「消化」ができるという。本作品「夜と太陽」は、ひとつの画面に夜と昼の世界を描き、太陽の下と夜とは、人間の心情に大きな変化が現れることを表現しているよつである。



「夜と太陽」高橋美佳 Mika TAKAHASHI アートポーター
アクリル 728 x 515mm 2017年

広告主 募集中!

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。ご協力を、ぜひともよろしく申し上げます。
1枠…1万円(4回掲載)
●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-artkyotoまで

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎075-692-3131

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

Yoshimura
吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

発展、ともに前へ...
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院